

# 適性検査Ⅰ

## 注 意

- 1 問題は2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙**だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立桜修館中等教育学校

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの**問題**に答えなさい。(＊印の付いている言葉には、文章のあとに〈言葉の説明〉があります。)

**文章A**

わがろうとあせったり、意味を考えめぐらしたりなどしても、味は出てくるものではない。だから早く飲み込こもうとせずに、ゆっくりと舌の上でころがしていればよいのである。そのうちに、おのずから湧然\*ゆうぜんとして味がわかってくる。

(和辻哲郎「露伴先生の思い出」による)

**文章B**

大事なことは、困難こんなんな問題に直面したときに、すぐに結論けつろんを出さないうで、問題が自分のなかで立体的に見えてくるまでいわば潜水せんすいしつづけるということなのだ。それが、知性に肺活量はいかつりょうをつけるということだ。

(鷺田清一「わかりやすいはわかりにくい?—臨床哲学講座」による)

〈言葉の説明〉

湧然ゆうぜん…水などがわき出る様子。

**問題**

右の**文章A**は明治から昭和にかけて活やくした哲学者・和辻哲郎わつじてつろうが、小説家・幸田露伴こうだろはんとの思い出について書いた文章の一部分で、師である幸田露伴から学んだ、俳句はいくを楽しむときの心構えを述べたものです。**文章B**は

現代の哲学者・鷺田清一わしだきよかずが、知性について書いた文章の一部分で、物事を考えたり判断したりするときの心構えを述べたものです。

この二つの文章は、同じようなことを述べていますが、その中には、ちがいもあります。あなたはこの二つの文章の共通する点と、異なる点と、どのように読み取りましたか。解答らん①には、物事に向き合うときの心構えについて共通する点を、二十字以上、四十字以内で分かりやすく書きましょう。解答らん②には、それぞれの筆者が伝えたいことについて異なる点を、「Aは……。」、「段落をかえて「Bは……。」という構成で、全体で百四十字以上、百六十字以内で分かりやすく書きましょう。

また、この二つの文章を読んで、あなたはどのようなことを考えましたか。解答らん③に、あなたの考えを、いくつかの段落に分けて、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

(書き方のきまり)

- 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。
- 書き出しや、段落をかえるときは、一まず空けて書きましょう。ただし、解答らん①については、一まずめから書き始めましょう。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点↓、や 句点↓。かぎ↓ 「などはそれぞれ一まずに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じますに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。